

	児童の実態	改善プラン	改善プランの評価方法
国語	①漢字は好きな児童が多く意欲的に取り組んでいる。学習した漢字を活用して文章を書く力が弱い。 ②話すこと・聞くことに関する理解力・定着の差が大きい。 ③自分の考えや思いを表現したり、事実と考えを区別したりして書く力が乏しい。	①小テストについては、返却後の直しをしっかりと行い、正しい漢字を定着できるようにする。他教科においても学習した漢字は色々な場面で活用して書かせるようにする。 ②発表のときなどに話し方の基本の徹底を図る。聞くときと作業のときを明確に分け、集中できるようにする。「話す・聞く」のポイントを示し、教室掲示し定着できるようにする。 ③国語の単元を利用して、文章の構成を学んだり、交流することで友達の文章から良いところを学んだりする場を設定し、書く力を伸ばす。苦手な児童には、インタビュー形式で個別支援をしていく。	①日々の確認テスト、学期のまとめテストの結果から評価する。 ②手を止めて相手の方に体を向けて、適度に相づちを打ちながら聞く姿勢が定着しているか評価する。 ③書く活動に取り組む姿勢や作文などの構成や内容で評価していく。
社会	①自分の住んでいる地域に興味をもって学習に取り組む児童が多い。しかし、自分の生活体験と学習内容を結びつけることが苦手な児童もいる。 ②地図に興味はあるが、正しく読み取る力を身に付ける必要がある。また、方位や地図記号を正確に覚えていない児童もいる。	①ICT 機器を活用するなど、教材を工夫し、自分たちの生活と結び付けられるような工夫をする。また、地図やワークシートを使い、市の特色などを示す。 ②どの学習單元でも地図を効果的に活用し、方位や地図記号を繰り返し指導することで、社会科の基礎的な力を身に付ける。	①ワークシートに取り組む姿勢や発言内容、ワークテストで評価する。 ②ワークシートやワークテスト、日々のノートの内容で評価する。
理科	①観察の学習では、何を見るのか、具体的な視点をもって観察できるようになってきている。 ②実験に対し、興味・関心が高い児童が多い。実験を正確に行う技能が伴わない児童が多い。	①五感を働かせて気付いたことを書いたり、比較して考えをまとめたりすることを通して、観察する技能を育てていく。 ②実験の際には、実験の仕方（条件を統一すること）・手順・目的を明確にして、全員参加・全員理解の授業を目指す。	①観察中の様子やワークシートの観察の視点を評価していく。 ②実験中の児童の様子や考察の内容を見取ることで、全員が学習を理解しているか、評価していく。
体育	①体づくり運動や器械運動の領域で、基礎的な技能が十分に身に付いていない児童がいる。 ②友達と協力して、お互いに技能を高めようとする様子が見られる。	①技のポイントを全体で共有したり、動画で撮影したりすることで技能の向上を目指す。必要に応じて、補助器具を活用して指導する。 ②友達と協力しながら運動する姿を称賛し、価値付けていく。友達との関わりを通して、全体の技能が向上するよう指導していく。	①学習指導要領の技の例示に示されている技と児童の実態を考慮し、何がどこまでできているかこまめに見取り、評価していく。 ②ワークシートの記入内容や、発言内容、児童同士のやりとりで評価する。

道徳	①意見を発表する児童が固定化している。 ②自分を振り返って、経験を思い出すことができない児童がいる。	①同じ意見でも自分の言葉で発言させたり、ペアで伝えあう時間を設けたりすることで、発言の苦手な児童も授業に主体的に参加できるようにさせる。 ②自分の経験を振り返る時間を取る。発表する必要がないことを伝え、正直に振り返ることができるようにする。	①ワークシートへの取組や友達の発言に対する反応で評価をする。 ②授業中の発言の内容で評価する。ワークシートの記入内容で評価する。
総合的な学習	①課題に即して調べ、情報を整理することに少しずつ慣れてきたが、必要な情報の取捨選択ができない児童がいる。 ②調べたことをまとめたり、まとめたことを表現したりすることに支援が必要である。	①ねらいや目的に沿って、情報を集める経験を積めるようにする。それらの情報からキーワードや大事なことをまとめられるように助言する。 ②課題をまとめるときの視点や発表するときのポイントを明確にしてからまとめる必要がある。自分の考えを表現する経験を増やし、選択肢を増やしていく。	①児童の学習の姿や作品、制作物などから見取り、評価する。 ②授業中の発言や記述、友達の発言に対する反応で評価する。また、まとめた資料や発表の内容で評価する。
特別活動	①1単位時間の学級会で、合意形成を図る進行の仕方に課題が見られる。 ②係・当番活動では、学級のために見通しをもって活動しようとする児童が多いが、担任の支援が必要な場合もある。	①学級会の計画を立てる時間を取り、司会グループと学級会の目的や流れを確認する。 ②活動を定期的に、自己評価・反省できるようにする。また、日頃の声掛けを行い、習慣化していく。	①時間内に、参加者が納得のいくまとめができたかを振り返らせ、評価する。 ②定期的に活動の振り返りや自己評価をさせ、積極的に活動できているか見取る。
外国語活動	①外国語活動には意欲的に取り組んでいる。感情表現、数（20まで）、アルファベット（大文字）の習得に関して個人差が大きい。 ②会話やゲームなどに意欲的に取り組む児童が多いが、コミュニケーションに消極的な児童もいる。	①感情表現、数（20まで）、アルファベット（大文字）の定着を目指し、年間指導計画・授業スタイルを確立していく。 ②英語を用いてコミュニケーションを図る楽しさを体験できるように、会話練習の仕方やゲームのやり方などを工夫する。	①英語表現定着をねらいとするアクティビティを行っている活動中に、個別にグループを周り、児童の定着度を確認していく。 ②单元ごとに、学習の振り返りをワークシートに書いて自己評価をし、学習に対する考えを見取る。